

情報提供資料

平成30年3月15日(木)

日高市

教育委員会・生涯学習課・文化財担当

Tel.042-985-0290

課長 関根 俊介

担当者職・氏名 主査 早川 修司

高林謙三とその家族の写真が見つかりました

平成30年2月下旬に、茶葉生産を手仕事から機械化する発明した高林謙三氏とその家族の写真が高林謙三氏の父親小久保忠吾氏の生家から10枚見つかりました。

写真は、明治31年頃で謙三氏67歳と想定されます。ご家族の写真は、明治31年から明治34年頃と考えられています。

「高林謙三の写真の他、妻の濱子や孫のよし子の写真が父の生家に存在していたことは予想できませんでした。驚きです。貴重な発見で謙三の歴史に付け加える事項が増えました。」と郷土史家の入江武男氏は話しています。

問い合わせ 郷土史家 入江武男 ☎090-7006-3806

※18時以降の連絡はご遠慮ください。



高林謙三

略歴

- 天保3年（1832） 4月に入間郡平沢村（現日高市）に小久保忠吾ときくの長男として生まれる。
- 弘化4年（1847） 医学を学ぶため江戸へ向い。安政6年（1859）に入間郡小仙波村（現川越市小仙波）で医院を開業する。
- 文久3年（1863） 川越藩侍医となり、小久保健次郎から高林謙三に改名する。
- 明治2年（1869） 茶園を開いて茶の生産を始めが、手もみ製茶の限界を感じ、製茶機械の発明を構想する。
- 明治18年（1885） 特許第2号「生茶葉蒸器械」、特許第3号「焙茶器」、特許第4号「製茶摩擦器械」、特許第60号「改良扇風機」を取得する。
- 明治19年（1886） 特許第150号「茶葉揉念機」を取得する。
- 明治31年（1898） 特許第3301号「茶葉粗揉機」を取得する。
- 明治32年（1899） 高林式茶葉粗揉機を松下耕作と静岡県掛川の工場で製造、販売を開始する。この高林式茶葉粗揉機は全国に普及し、手回しから動力へと改良が進む。
- 明治34年（1901） 高林謙三70歳で永眠。墓碑は川越市喜多院にある。

功績

高林謙三が考案した高林式茶葉粗揉機の揉み手の原理は、現在の機械にも受け継がれています。

茶葉生産を手仕事から機械化する発明を行い、茶葉の生産量を増やし、茶葉の普及と茶業界の発展に大きく貢献した人物です。